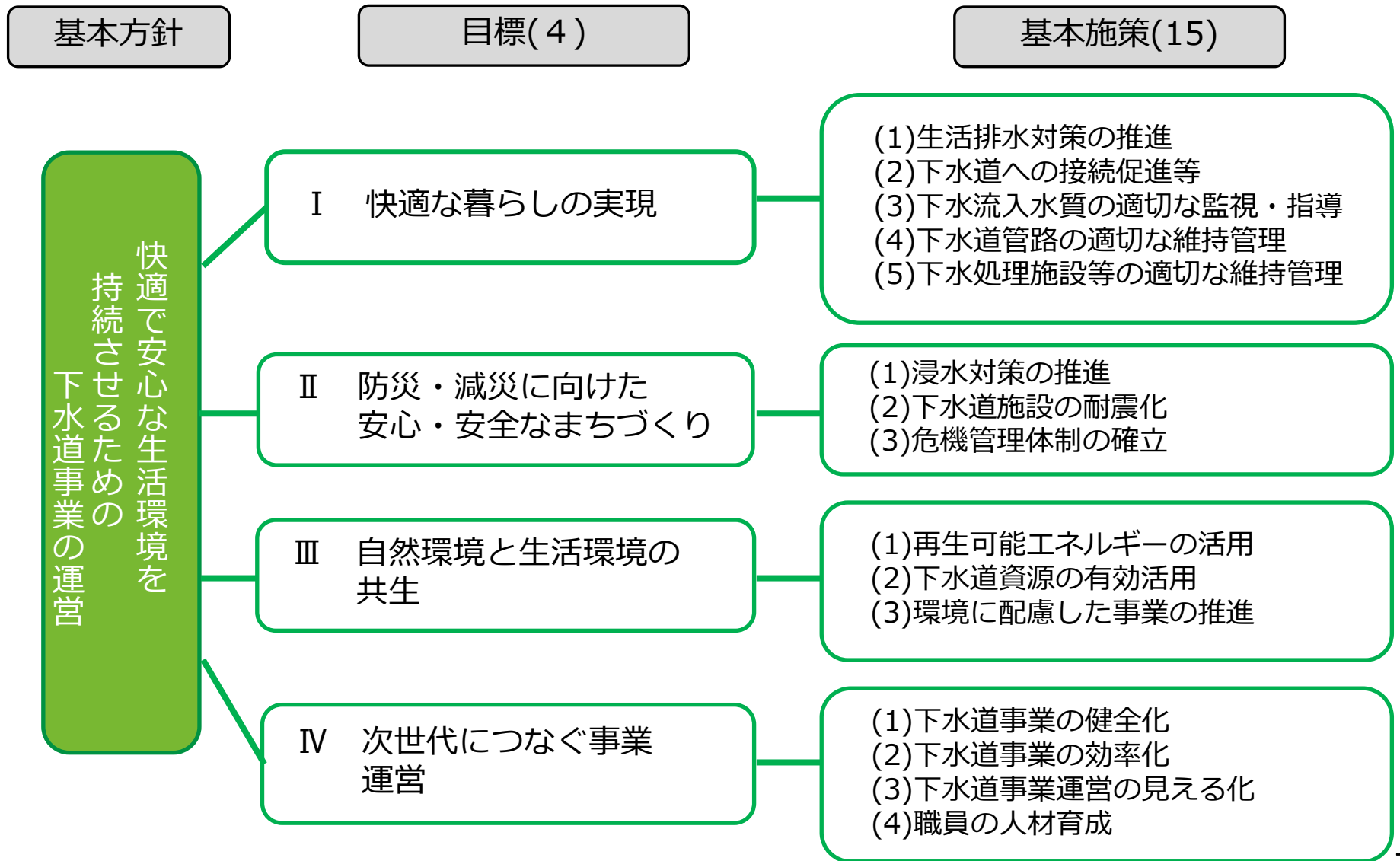


## 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 1 施策体系



# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況

【目標Ⅰ】 快適な暮らしの実現

【基本施策】

- (1) 生活排水対策の推進
- (2) 下水道への接続促進等
- (3) 下水流入水質の適切な監視・指導
- (4) 下水道管路の適切な維持管理
- (5) 下水処理施設等の適切な維持管理

市民生活に不可欠な下水道は、上位計画や他の関連計画等との整合を図りながら、適切な整備・維持管理を行い、財政状況を考慮した上で、ライフラインとして機能するよう努めます  
また、公共用水域の水質保全に努めます

指標の達成率

80%

(4/5 項目)



上昇が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	下水道整備面積 (ha)	公共下水道（污水）の整備を完了した面積を示す指標	5,599.0	5,644.1		R5年度について、旧高松市、約1.5ha、合併町（香川町）約1.5haの合計3.0haの整備を行ったが、計画を下回った。 第4次高松市生活排水対策推進計画に基づき、未整備地区において、計画的な下水道管路の整備を進める。	下水道整備課
			5,508.5				
			98%				
②	下水道人口普及率（%）	本市の人口に対し、下水道が使用できる人口の割合を示す指標	64.4	65.2		現行の下水道事業計画区域において、計画どおりに整備が進めば目標値を達成できる見込みであることから、今後は、費用対効果も十分勘案し、計画区域内の未整備地区について、私道に係る下水道管の布設同意を呼び掛けるなど、関係者の協力のもと、整備を進め、普及率の向上を図る。	下水道業務課 下水道整備課
			64.4				
			100%				
③	公共下水道接続率（%）	公共下水道供用開始区域内の戸数のうち、公共下水道に接続している戸数の割合を示す指標	92.9	94.4		引き続き、供用開始時の接続依頼を始め、郵送による接続促進のほか、広報誌やSNSを活用した周知・啓発に取り組むとともに、下水道接続に支障となる諸問題の解決に向けた、きめ細かな助言・指導を行うことなどにより、公共下水道への接続を促進する。	下水道業務課
			93.1				
			100%				

### 用語解説

公共下水道→市街地の雨水を速やかに排除し、また、汚水を終末処理場で処理して河川に放流するもので、地方公共団体が管理する下水道のこと。  
(※終末処理場とは、下水を最終的に処理して河川や湖沼又は海域に放流するために設けられる処理施設及びこれを補完する施設。)

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況

【目標Ⅰ】 快適な暮らしの実現

【基本施策】

- (1) 生活排水対策の推進
- (2) 下水道への接続促進等
- (3) 下水流入水質の適切な監視・指導
- (4) 下水道管路の適切な維持管理
- (5) 下水処理施設等の適切な維持管理

市民生活に不可欠な下水道は、上位計画や他の関連計画等との整合を図りながら、適切な整備・維持管理を行い、財政状況を考慮した上で、ライフラインとして機能するよう努めます  
また、公共用水域の水質保全に努めます



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
④	管路等閉塞事故発生件数（件／100km当たり）	管路の100km当たりの閉塞事故発生件数を示す指標	5.8	5.8		管路の閉塞が発生しやすい箇所を中心に定期的なパトロールを行い、必要に応じて清掃を実施するなど適切な維持管理に取り組んでいる。	下水道整備課
			5.7				
			102%				
⑤	管きよ（最重要・重要管路施設）点検・調査回数（回）	ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路施設の点検調査を実施した回数	0.8	2.0		ストックマネジメント計画に基づき、管きよ（最重要・重要管路施設）の点検・調査を行っている。	下水道整備課
			1.0				
			125%				

### 用語解説

管きよ→下水を流す開きよ（地上部に設置された排水路）と暗きよ（地中に埋設された排水路）の総称。

管路→管きよ、マンホール、ます、取付管等、下水（汚水及び雨水）を集めて下水処理場や放流先へ運ぶまでの施設・設備の総称。

ストックマネジメント→膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら、明確な目標を定め、下水道施設を計画的かつ効率的に管理しようとする、既存の構造物や施設（ストック）を有効に活用し、施設全体の将来的な事業量の縮減・平準化を図る体系的な手法の総称。

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況

【目標Ⅱ】 防災・減災に向けた  
安心・安全なまちづくり

【基本施策】


- (1) 浸水対策の推進
- (2) 下水道施設の耐震化
- (3) 危機管理体制の確立




浸水、地震などの災害に強いまちづくりを目指して、市民の皆さまが  
安心して安全な生活ができるよう努めます

指標の達成率

50%

(3/6 項目)

 上昇が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	雨水対策整備率 (%)	下水道（雨水）による浸水対策が講じられた面積の割合を示す指標	49.6	51.0		中心市街地の浸水対策として、西部地区において既設管きよからの雨水幹線への接続工事を進捗するとともに、周辺市街地においても宮川雨水幹線の整備工事を行う等、供用開始を目指し浸水対策を進めている。	下水道整備課
			48.8				
			98.4%				
②	マンホール蓋（浮上防止機能付）更新数（基）	浮上防止機能付きマンホール蓋への更新を完了した総数を示す指標	1,500	3,300		R5年度は、189基の更新を実施し、計画を上回った。R6年度以降についても、浮上防止機能付きマンホール蓋への更新を計画的に行う。	下水道整備課
			1,753				
			117%				
③	雨水流出抑制量 (m <sup>3</sup> )	雨水貯留施設又は雨水浸透施設の設置により、流出を防いだ雨水量を示す指標	21,366	22,317		近年、下水道整備区域の拡大が鈍化していることなどからR5年度については小規模施設26基の整備にとどまっている。 広報紙やSNSを活用した啓発を行うほか、げすいどうフェスタなどのイベントや小学生を対象とした水環境出前講座などの機会を利用し、雨水の流出抑制量の増加に努める。	下水道業務課
			20,816				
			97%				

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について


## 2 各指標の状況




【目標Ⅱ】 防災・減災に向けた  
安心・安全なまちづくり

【基本施策】

- (1) 浸水対策の推進
- (2) 下水道施設の耐震化
- (3) 危機管理体制の確立

浸水、地震などの災害に強いまちづくりを目指して、市民の皆さまが  
安心して安全な生活ができるよう努めます

 上昇が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
④	下水道管きよ (管路)耐震化率 (%)	下水道管きよ総延長に対 する耐震管きよ延長の割 合を示す指標	39.2	40.0		管きよの新設時に耐震性を確保した整備を行うと ともに、主要な管路を中心に改築・更新に取り組ん でいる。	下水道 整備課
			39.9				
			102%				
⑤	下水道施設(汚水 系)耐震化率 (%)	下水道施設のうち、耐震 化が図られた割合を示す 指標	33.3	50.0		耐震化の完了した汚水系の施設は21施設中5施設 であるが、対象施設の耐震補強設計を順次進めてい る。	下水道 施設課
			23.8				
			71%				
⑥	下水道BCPに基づ く訓練回数 (回/年)	下水道BCPに定めた参集 訓練や図上訓練等の年間 実施回数を示す指標	2	3		R5年度は、下水道部管理職員の非常参集訓練(危 機管理課と合同)や、チャット利用による図上訓練 を実施した。 R6年度以降は、県下で進める汚水処理事案の広域 化・共同化の一環として、県内自治体合同の訓練が 予定されている。	下水道 経営課
			2				
			100%				

### 用語解説

BCP→事業業務継続計画のこと。災害時に行政自らも被災し、人、物、情報等利用できる資源に制限がある状況下において、優先的に実施すべき業務(非常時優先業務)を特定するとともに、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保等をあらかじめ定める計画。

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況

【目標Ⅲ】 自然環境と生活環境の共生

【基本施策】


- (1) 再生可能エネルギーの活用
- (2) 下水道資源の有効活用
- (3) 環境に配慮した事業の推進


地球規模での環境問題に対し、再生可能エネルギーや下水道資源を有効に活用することで、自然環境と生活環境の共生を目指します


指標の達成率




67%

(2/3 項目)

 上昇が望ましい指標

 維持が望ましい指標

 低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	消化ガスの有効利用率(%)	東部下水処理場で発生する消化ガス(バイオガス)の処理場内における有効利用率を示す指標	100	100		前年度から引き続き、東部下水処理場で発生した消化ガスの100%を有効利用した。	下水道施設課
			100				
			100%				
②	再生水利用施設数(施設)	再生水利用下水道事業により再生水を利用している施設数を示す指標	65	65		当該事業の利用は、建物の建築時において、建築主が任意で選択できるため、利用施設数を市がコントロールすることは困難であるが、機会を捉え当該事業をPRし、水資源の有効活用に努めている。 R2年度において、利用施設が2施設減少となったが、R5年度にJR駅ビル、R6年度には新県立体育館で再生水利用予定であり、その他の施設についても、機会を捉えPRする予定である。	下水道業務課 ・ 下水道整備課
			63				
			97%				
③	汚水処理エネルギー原単位(%)	汚水1m <sup>3</sup> を処理するために要する電力量の割合(平成30年度比)を示す指標	99.2	98		適正な運転管理、設備の改築、維持修繕を行い、使用電力量削減に努めた。 今後、更なる省エネルギー化を図るため、機器更新の際、省エネルギータイプの機器、設備の導入を検討していく。	下水道施設課
			92.9				
			106%				

### 用語解説

消化ガス→下水処理の過程で発生する、メタンを主成分とするガス。

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況

【目標Ⅳ】 次世代につなぐ事業運営  
【基本施策】

- (1) 下水道事業の健全化
- (2) 下水道事業の効率化
- (3) 下水道事業運営の見える化
- (4) 職員の人材育成

新たな財源確保や事業費の平準化により、安定した経営基盤を確立します  
また、包括的民間委託等による官民連携など効率的な運営体制を検討します  
これらの取組などにより、安定した持続可能な事業運営に努めます

指標の達成率

17%

(1/6 項目)



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	汚水処理原価 (円/㎡)	1㎡の汚水処理に要する コストを示す指標	152.5	151.0		R5年度について、有収水量が、汚水処理に要する経費の低下を上回って減少したことから、計画より若干上昇した。 R6年度については、人口減少、節水機器の普及等による有収水量の減少や、物価高騰、電気料金の上昇による経費の増加が見込まれるため、汚水処理原価は計画より上昇する見込みである。	下水道 経営課
			160.1				
			95%				
②	経費回収率 (%)	下水道使用料で回収すべき経費が、どの程度、下水道使用料収入で賄えているかを示す指標	108.7	108.0		R5年度について、有収水量が、汚水処理に要する経費の低下を上回って減少したことから、計画より低下した。 R6年度については、人口減少、節水機器の普及等により、有収水量が減少する見込みとなっており、これに伴い使用料収入が減少し、また、物価高騰、電気料金の上昇により、汚水処理費が増加することから、経費回収率としては計画より低下する見込みである。	下水道 経営課
			89.7				
			83%				
③	職員1人当たり 下水道使用料収入 (千円)	損益勘定職員1人当たり の下水道使用料収入を示す指標	73,230	72,473		R5年度について、有収水量の低下により、使用料収入が減少したため、低下した。 R6年度については、人口減少、節水機器の普及等により、有収水量が減少する見込みとなっており、それに伴い計画より低下する見込みである。	下水道 経営課 ・ 下水道 業務課
			60,376				
			82%				

### 用語解説

損益勘定職員→主として営業活動に従事するため、給与が予算の収益的支出に計上される職員。



# 高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和5年度実績）について

## 2 各指標の状況




【目標Ⅳ】 次世代につなぐ事業運営

【基本施策】

- (1) 下水道事業の健全化
- (2) 下水道事業の効率化
- (3) 下水道事業運営の見える化
- (4) 職員の人材育成

新たな財源確保や事業費の平準化により、安定した経営基盤を確立します  
また、包括的民間委託等による官民連携など効率的な運営体制を検討します  
これらの取組などにより、安定した持続可能な事業運営に努めます

 上昇が望ましい指標  低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
④	使用料単価 (円/㎡)	有収水量 1㎡当たりの 下水道使用料収入を 示す指標	165.7	163.0		R2年度に、新型コロナウイルスに影響により、大口 需要者の使用水量が減少し、低い単価層へ移っていた が、R5年度の使用料単価は昨年引き続き横ばいとな り、使用料単価が計画より低下した。 R6年度については、人口減少、節水機器の普及等 により、有収水量が減少する見込みとなっており、これ に伴い使用料単価が計画より低下する見込みである。	下水道 経営課 ・ 下水道 業務課
			143.5				
			87%				
⑤	企業債残高対事 業規模比率 (%)	営業収益に対する企 業債残高の割合で、 企業債残高の規模を 示す指標	1,613.7	1,342.4		R5年度について、施設整備事業費の減少に伴い、借 入額が減少し、起債残高が減少したが、人口減少、節 水機器の普及の影響等により使用料収入が減少し、営 業収益も減少したことから、計画より上昇した。 R6年度についても、人口減少、節水機器の普及等 により、有収水量が減少する見込みとなっており、それ に伴い計画より低下する見込みである。	下水道 経営課
			1,851.2				
			85%				
⑥	下水道事業に関 する情報発信 (回/年)	イベント種類、情報 発信方法を合算した 回数を示す指標	15	20		R5年度は、計画していた5種類のイベントのうち全て を実施することができ、下水道について広く周知する 機会を創出できた。 また、HPやSNSなどを活用し、イベントの開催周知を 行うことで、目標を達成した。	下水道 経営課
			19				
			127%				

### 用語解説

有収水量→下水処理施設で処理した汚水量のうち、下水道使用料徴収の対象となる水量。

企業債→地方公共団体が地方公営企業の建設、改良等に要する資金に充てるために起こす地方債。

## 3 現状分析、今後の課題

### 現状分析

- 指標全体の達成率は、50%（全20項目中10項目）
- 令和5年度は、人口減少、節水機器の普及等による有収水量の低下等のため、使用料収入が減少し、営業収益も減少したことから、【目標Ⅳ】次世代につなぐ事業運営に係る指標について、目標を達成できないものが多く見られた。
- 一方で、【目標Ⅰ】快適な暮らしの実現に係る指標については、郵送・広報誌・SNS等を活用した周知・啓発による下水道接続の促進や管きよの点検・調査などにより、ほぼ全ての指標において目標を達成した。

### 今後の課題

- 令和6年度以降においても、人口減少、節水機器の普及等による有収水量の低下等のため、使用料収入の減少傾向が続く見込みである。
- 下水道施設の老朽化の進行や社会情勢の変化に伴う新たな課題に的確に対応しつつ、本市が将来にわたって、持続可能な事業運営を行うため、下水道使用料の適正化、施設の適正管理・長寿命化、民間活力の活用も含めた施設の維持管理体制のあり方等を検討する必要がある。